

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172600906
法人名	医療法人社団 康誠会
事業所名	グループホーム ローズ・ガーデン おおの
訪問調査日	平成21年1月22日
評価確定日	平成21年2月26日
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172600906		
法人名	医療法人社団 康誠会		
事業所名	グループホームローズ・ガーデンおおの		
所在地 (電話番号)	〒501-0563 岐阜県揖斐郡大野町瀬古232 (電話) 0585-36-0078		
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年2月26日

## 【情報提供票より】(20年11月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	13.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

### (4) 利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	72歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林医院, おおのクリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームローズ・ガーデンおおのは、経営母体の病院と同じ敷地にあり、中庭にある庭園には四季折々の景色が楽しめる。運動会ができるほど広いホーム内の共用空間では、食事や利用者の交流などの憩いの場となっている。「家庭的な雰囲気の中で安心してその人らしく生き生きと暮らせるように」が理念であり、職員は利用者一人ひとりに合わせ、その日その時をどう過ごしたいのか、何を望んでいるのかを絶えず心におき支援されているホームである。また、地域との関わりについては、地域密着型サービスに沿って日々の取り組みをしており、地域の一員として自然な形で、地域に溶け込んでいるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前々回、前回共に改善点が指摘されていない。施設長や管理者は、常に一步上のサービスを目指しており、職員全員での取り組みの効果も出、質の高い支援に繋がっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、毎回職員全員で作成しているが、今回は特に職員が主体となって評価を行った。「家庭的な雰囲気のもとで、また地域住民との交流のもとで」との基本方針を、職員一人ひとりが常に意識し、話し合い積極的に取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的に行っている。民生委員や自治会から活発な意見が出され、会議の様子は会議録に記録され、職員会議で報告し、ホーム運営に反映させている。また、大野町の他のグループホームの管理者が会議に参加しているのが大きな特徴で、お互いのグループホームのサービスの質の向上に向け切磋琢磨している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居時に、重要事項説明書で「苦情相談機関」の項目を定めており、支援相談体制が取れている。また、ホーム内の意見箱の設置や担当相談者が分かるようになっており、面接時や運営推進会議などでも家族の意見を出し易い環境を作り出している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>管理者や職員は、あいさつ等の声かけが地域交流の第一歩ということを認識しており、散歩や買い物、喫茶店、参加行事等、地域住民と出会う様々な場面で、利用者ともども積極的に言葉を交わしている。地域行事への参加や、ホームに多くのボランティアが訪問するなど、利用者を楽しませている。また、民生委員、自治会の協力もあり保育園や小学校との交流もある。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームは、地域の一員として地域の中で溶け込んでいる。グループ会社の理念を基本姿勢に、ホーム独自の方針を作り、家庭的な環境づくりと、地域住民との交流を大切にする事として、職員、利用者が買い物や散歩、喫茶店等であいさつ等、積極的に声かけをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、午後から30分間、ミーティングを欠かさず行っており、困ったときには、理念に沿って職員全員で検討しており、その理念や方針に沿ってのケアが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物、喫茶店等で地域住民に利用者や職員からあいさつ等、声かけをしている。多くのボランティアがホームを訪問し、利用者は日々多様な活動に満喫している。民生委員や自治会の橋渡しで、保育園や小中学校との交流も盛んである。また、地元の行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員に評価の意義や目的等は、毎年の評価時に説明している。今回は特に、職員主体で自己評価に取り組んでおり、時間はかかったが、職員が自発的に日々のケアやサービスの向上を目指すようになったことなど、大きな効果をもたらしている。職員は利用者や家族に如何に満足してもらえるか等を常に考えたケアを実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的で開催している。自治会や民生委員から活発な意見が出され、その様子は会議録に記録され、職員ミーティングで報告し、ホーム運営に反映させている。また大きな特徴として、大野町の他のグループホームの管理者が、運営会議にお互いに出席し合っており、それぞれサービスの質の向上に活かしている。		

グループホーム ローズ・ガーデン おおの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に福祉担当職員が出席し、介護福祉の動性を報告説明している。福祉課担当者から相談や助言を貰うなど事業運営に反映させる連携体制が取れている。町内の5つのグループホームで作成したポスターやチラシを役場や関係ホームに掲示している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	管理者は、事業所運営に家族等の協力が最も大切であることを認識しており、家族との関わりを大切にしている。職員は、面会時を捉え、湯茶をサービスするなど家族との話し合いに重点を置いている。また、面会の少ない家族には毎月の利用料請求時にたよりで施設の行事等を知ってもらうほか、日々の暮らしの状況や健康状態等も詳しく書いて送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会があり、家族からの意見や希望を話し合いの上聞き出している。また、意見箱の設置や重要事項説明書で苦情相談機関を定めており、折に触れ苦情相談窓口や担当者、役場の相談機関など分かり易く説明している。苦情は余り出てこないが、聞けば直ぐにミーティングで検討し、ホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代は、過去に1人あったのみで、職員の定着率は高い。管理者は、顔なじみの職員との生活が、利用者に安心感を与え、家族との信頼関係が築けることを認識しており、ユニット間の異動も最小で済むように、常に状況をみて行っている。また、異動があった場合は、施設のたよりで家族に知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内の勉強会を、毎月1回開催している。管理者やリーダー、ケアマネージャー、看護師そして職員が交代で自分のテーマを決め講師を務めている。また、外部の研修も研修計画を作成し、多くの職員が受講している。研修結果は復命書を書くと共に、ミーティングで報告され、情報の共有を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大野町の5つのグループホームの管理者が、毎月勉強会をして交流を図っている。また、運営推進会議において互い管理者が出席し、他の施設の良いところを取り入れ、それぞれグループホームのサービスの質の向上を目指し、切磋琢磨している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者希望の本人や家族に施設見学をしてもらい、利用者と一緒にお茶を飲んだり話しをしたりして、ホームや利用者、職員に馴染んでもらい、安心して納得した上で入居してもらっている。また、入居希望でない人でも、いつでも見学に応じている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自己評価を職員主体で行なった成果が出ている。職員全員が利用者の尊厳を尊重し、利用者本位を常に頭に置いて、1つひとつの支援を活かしている。喜怒哀楽を共にするなど、職員と利用者との信頼関係を築いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は、利用者との日々の生活の中での話し合いにおいて、本人がこのホームでどう暮らしたいのか、今日、どう過ごしたいかの思いの把握を聞き出している。また、会話の出来ない利用者には、職員が話しかけた反応(目の動きや体の訴え)から本人の意思を把握している。		
いかして					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の30分のミーティングでケアを振り返り、また、カンファレンスで本人のケアの状態や目標達成についてなど話し合いケアプランに活かしている。常にその人らしい生活が出来ることを考え、主治医、看護師、ケースワーカー、本人及び家族の意見を盛り込んだケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度介護計画の見直しをおこなっている。急な変化が生じた場合は、生活面・医療面などをかかりつけ医・看護師・家族・職員で話し合い、本人の思いに沿った介護計画を新たに作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事前にアセスメントをしっかりとし、利用者のふるさと心・頭の中の世界に飛び込み職員も一緒に出かけている。医療連携体制もとられており、日常の生活状況の説明が必要などときなど通院介助を行い、正月には近くにある神社に初詣に出かけたり、理美容院の訪問が月に2回あるなど多機能性を活かした柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入居しても以前から馴染みのあるかかりつけ医に受診できるよう、本人・家族の希望を大切にしている。週に1回主治医の往診があるが、利用者個々の服薬記録や連絡表を作成し、医師・看護師・薬剤師・家族・職員で情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や、心身状況の変化時には、アセスメントを行い、家族と共に本人の望む終末期の迎え方を話し合い、本人・家族の意向を確認している。急変時には、その都度家族と話し合い、職員間で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の中で、利用者一人ひとりの誇りを傷つけることのないよう声かけしている。個人ファイルの管理は事務所に保管し、訪問者の目に付かないようプライバシーに配慮している。		
21	52	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースに合わせて、自分らしく過ごせるよう気をつけている。「その日そのときをどう過ごしたいのか」「何を望んでいるのか」を考え利用者の希望に沿った支援ができています。		

グループホーム ローズ・ガーデン おおの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週月・水・金と利用者と共に買い物に出かけたり、食事の準備・食事づくり・後片付けなど毎日利用者が参加して行われている。職員は利用者と同じメニューを同じテーブルで食べ、利用者とのコミュニケーションを図っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を希望する利用者には、本人の都合や気持ちを考慮し入浴支援を行っている。お風呂に入りたがらない利用者には、「あの人が一緒に入るから」「出たらおやつにしよう」などと声をかけを工夫し、入浴を楽しめるよう気を配っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意なこと調理・掃除・手芸・書道・毎日の洗濯干しやたたみなど日常生活の中に折り込み、職員も共に行うことにより、利用者が安心して役割を行えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望に考慮しながら、ホームの周りを散歩して近所の方と交流したり、職員と共にモーニングサービスやランチに出かけている。また週に3回利用者と買い物に出かけたり、中庭の掃除を手伝うなど戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによる閉塞感をなくすため、日中玄関・居室に鍵はかけられていない。昨年末利用者が無断外出し行方が一時不明になったが、近所の方が利用者へ声をかけをし、警察に連絡を取ってもらえるなど普段から地域住民と連携がとれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害を想定して年に2回消防署立会いのもと避難訓練・災害訓練を行っている。また、毎月消防署と連携をとり、通報訓練や初期消火訓練など災害時に備え、あわてず・安全に避難できるよう地域の協力を得られるよう声かけしている。		

グループホーム ローズ・ガーデン おおの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の生活の中で個々に合わせ水分補給・食事量の確保をしている。水分量や食事の残量については、個々に記録され、1週間の献立を管理栄養士がチェックしているが、利用者の希望に沿って献立を変えている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は運動会が出来るほど広く清潔で開放感がある。玄関には利用者の写真やパンフレットが飾ってあり、季節の草花を置いたり、利用者の好みのCDをBGMにかけるなどゆったりとくつろげる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品を持ち込み、家族との交流を綴ったアルバムが置いてあるなど利用者が落ち着いて生活できる空間となっている。		